

第2回 都市景観賞表彰作品

- ① ダイコク電機本部ビル
- ② ザ・モール春日井の夜景
- ③ 文化フォーラム春日井
- ④ 高蔵寺ニュータウン内街路
- ⑤ パセリクラブ

- ①～④ 都市景観賞
- ⑤ 都市景観活動賞





都市景観賞

ダイコク電機本部ビル

所在地 春日井市坂下町1-875
 所有者 ダイコク電機株式会社
 設計者 安藤忠雄建築研究所
 施工者 清水建設株式会社名古屋支店



田園風景の残る、まだまだのどかな春日井郊外、国道19号沿いの坂下交差点に、本作品は1998年の春、降って湧いたように出現した。

「ビッグシップ」と名付けられ、曲面で構成されたダイコク電機本部ビルと、県道を取り込んだ向かいの「マスト」と呼ばれる、方形のパーキング・タワーとからなり、その簡素でシャープな造形とコンクリート打ち放しの上質な仕上げ、ケヤキの植栽など、周辺へのさり気ない気配りは、一目でそれとわかる安藤忠雄の設計である。

当初懸念された、コンクリート打ち放しのぜいたくではあるが一見、無愛想な形態とスケールのパーキング・タワーも、雑然と増殖する沿線の無神経、無秩序を足下に、かえって毅然として屹立している。ことに内津峠の霞む稜線を背景に見せる朝夕の光と影の表情は大方のドライバーにとって印象的な、新しい景観だといえよう。

春日井市とその動脈ともいえるR19はまたとないランドマークを得たものだ。

(品川 誠)

主要用途 事務所、ショールーム
 規模 地上4階、地下2階
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
 建築面積 2,360.13m²
 延床面積 9,542.98m²
 完成時期 1998.3





都市景観賞

ザ・モール春日井の夜景

所在地 春日井市六軒屋町字東丘22
所有者 株式会社西友 ザ・モール春日井店
ステンドグラス制作 Ji Cheng



表彰対象 夜景
敷地面積 48,966m²
完成時期 1992.6



市民にとって都市景観賞はどう受け止められているのだろうか。景観に貢献する質の高い建築や構造物によって、まちの景観が向上することは確かだし、そのような対象を選定・顕彰し、行政はもちろん、市民や企業もそれから意図を汲みとって、今後、建築物等を造ったり改修したりする際に参考にして頂こうということが、都市景観賞選定の目的である。

一方で、そのまちの景観イメージとか、まちらしさが何によって生み出されているかといえば、超一級の建築物等だけによっているわけではない。醜悪ではまずいが、意外なものがある。このザ・モー

ルもそのひとつではないか。

国道19号は、こうしたバイパスの宿命か、ロードサイド店舗が無国籍状態に立ち並び（それが19号の景観だと言ってしまえばそれまでだが）、われもわれもと自己主張しているかに見える。この作品は、3年前、第1回の折にも推薦があったが、その時には評価が得られず、受賞に至らなかったものである。確かに昼間はあまり目立たないが、夜景としてロードサイドを彩り、市民のイメージに定着した、ということで今回の受賞となった。

(曾田 忠宏)



都市景観賞

文化フォーラム春日井

所在地 春日井市鳥居松町5-44
 所有者 春日井市
 設計者 株式会社安井建築設計事務所
 施工者 佐藤・土屋・イリヤ特定建設工事共同企業体



主要用途 図書館、文芸館
 規模 地上4階、地下2階
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
 一部鉄骨造
 建築面積 3,784.32m²
 延床面積 19,692.22m²
 完成時期 1999.11



「これはいったい何だろう」と思わせる建物である。市役所と市民会館に面して建っているから公共施設だろうというくらいの想像はつくが、初めてこの建物を見る人は、その幾何学的デザインに驚くかもしれない。大きなシリンダー状の円筒とルービックキューブを思わせる直方体の組み合わせは、確かに新鮮だ。それらを覆っている天井か屋根のような構造体が描く直線も、とてもシャープだ。このユニークな建物が図書館と文芸館からなる複合文化施設であると知ると、どんな中身の施設かいやがうえでも興味がそそられる。

中に入ってみると、巨大な吹き抜け構造の交流アトリウムに圧倒される。自然光が大きな曲面ガラスから射し込んでお

り、外部空間を内部化する意図が読みとれる。開放型エレベーターで3、4階の図書館へ行くと、そこは広々とした読書空間。畳敷きの読書コーナーがあったり、絵画の貸出が行われるなど、通り一遍でない工夫が凝らされている。極め付きは4階の空中庭園であり、スカイフォーラムと名づけられたこの空間は「こんなところに庭が」と、来館者を驚かせる。建物の内部と外部を結びつける意図がここにも現れている。建物は時代とともに生きていく。斬新なイメージに満ちたこの施設は、市民に受け入れられ親しまれるにつれて、やがて新しい時代のシンボルとしてこの地域にとけ込んでいくであろう。

(林 上)



4 都市景観賞

高蔵寺ニュータウン内街路

区 域 春日井市高蔵寺ニュータウン内

所有者 春日井市



表彰対象 街路
 延長 春日井市道白山線の内約3km
 完成時期 1974.7

ニュータウンの幹線道路の機能だけでなく景観にも配慮した道路である。まず種々な樹木による季節変化の演出である。堤状に盛り上げた中央分離帯には樺が整然と立ち並び、路側帯には自然風に枝を広げた楠とその下に整然と刈り揃えたツツジ。又歩道の奥に続く法面の雑木林の中に点在する桜・雪柳・萩などの花木や松・樅などの常緑樹。これらが四季折々の変化を演出し住民及び通行者の目を和ませている。

次にこれらの樹木による住環境保護の役目である。この住宅地は大部分が道路面より高く、道路との間には法面として前述の樹木が緩衝帯となり、全体に住宅を見上げる視覚方向になっている。現在樹木の生長とともに住宅は隠され高層の建物は樹間に垣間見る景観である。これは反対に住宅側からは道路を直接見ることなく消音には有効



になっている。事実、住宅地側に入ってみると騒音は意外と少ない。

とかく造成地内の街路樹は十分な生長を望めないが、ここでは定期的な維持・管理で良好な景観と住環境保護の役目が保たれている。(堀 正之)



パセリクラブ

名称：パセリクラブ

発足：平成5年10月

都市緑化植物園「緑と花の休憩所」のオープン時のハンギングバスケット講座受講生

会員：29名

活動：都市緑化植物園内「緑と花の休憩所」内の花がら摘み、草取り、水やり（週2回）、植え替え、入れ替え作業（年6回×3日）、展示コーナーの装飾、学習会（ディスプレイの提案）フラワーショーのための装飾品の作成（年間30日程度）、2階テラス（ウッドデッキ）のディスプレイ、植物園まつりなどの行事へ

の参加、緑と花の休憩所インフォメーション業務、定例会の開催（月1回）

都市緑化植物園外…公民館等でのハンギングバスケット教室の講師（勝川駅前商店街まちづくり協議会、南部ふれあいセンター他）、JR高蔵寺駅前花飾り（テラコッタ）の指導・管理、レディヤンかすがい等公共施設における花飾りの指導・アドバイス、地域の学校のPTA活動への参加（花壇及び周囲の花飾り）

受賞：平成12年4月29日 第11回全国「みどりの愛護」功労者建設大臣表彰



都市緑化植物園内にある「緑と花の休憩所」オープン時に「ハンギングバスケット講座」が催された。この会は、その時の受講修生によって発足したと聞く。その後、同講座は3年に一度の間隔で続けられており、その折々の受講生がさらに加わり、現在では会員約30名を擁するという。当初は都市緑化植物園内に於けるボランティア活動が中心で、紹介欄にもあるように、休憩所内の草花の世話や入れ替え作業、あるいは展示コーナーの装飾などを精力的に行ってきた。

都市緑化植物園内の活動のみならば、都市景観活動賞の対象にはならなかった。しかし、それ以外での幾つかの啓発・実践活動が、本市の景観形成の理念である「人と緑奏でる春日井ルネッサンス」の具現化に貢献しているとして選考委員を納得させた。

会のモットーは、「花と緑に親しむ楽しさを多くの人びとに知ってもらい、輪を広げる」とのこと。日々の活動には多くの苦勞を伴うことであろうが、この輪がどんどん広がり、大輪の花が市中至る所に咲き誇ることを望んで止まない。
(塩見 弘幸)



選考基準

- 1 周辺景観との調和について評価する。
 - まちなみへの配慮がなされているもの
 - 緑化への努力、自然の風土や地形との調和が優れているもの
 - 歴史的、伝統的な周辺のまちなみとの調和が優れているもの
- 2 地域社会への配慮について評価する。
 - オープンスペースが有効に活用されているもの
 - その地域の文化性を高めているもの
- 3 単体としてのデザインを評価する。
 - 意匠、形態、色彩及び材料が優れているもの
 - 優れたデザインで地域の景観をリードしているもの
- 4 まちなみとしてのデザインを評価する。
 - 住民の創意工夫により、優れた都市景観が創出されているもの
 - 今後のまちづくりのモデルになるもの
 - 総合的な計画により魅力的な都市空間が創出されているもの
- 5 その他この賞の趣旨にそって評価する。
 - 様々なイベント、運動により、優れた都市景観の形成に貢献するもの



選考委員

◎石黒 鏞二	彫刻家、名古屋造形芸術大学学長
佐々木 葉	日本福祉大学助教授
塩見 弘幸	中部大学教授
品川 誠	名古屋造形芸術大学教授
曾田 忠宏	愛知工業大学教授
西尾 静夫	春日井市助役
長谷川逸子	建築家
林 上	名古屋大学教授
堀 正之	愛知建築士会春日井支部長
水尾 衣里	名古屋女子文化短期大学助教授

〔◎印は選考委員長／50音順／敬称略〕

選考経過

推薦・応募対象 春日井市内にあり、優れた景観づくりに貢献するすべてのもの
募集期間 平成12年7月1日（土）～7月31日（月）
募集結果 推薦・応募総数……82件 応募物件数……74件
[内訳] 建築物……57件 工作物…… 3件 街路・街並み…… 8件
自然・公園……12件 活動…… 2件

第2回都市景観賞選考委員会一次選考 平成12年8月25日（金）
書類選考により14件を選出

第2回都市景観賞選考委員会二次選考 平成12年9月6日（水）
一次選考通過14件について現地調査を実施
都市景観賞4件、都市景観活動賞1件を選考

第2回都市景観賞表彰式・記念講演 平成12年11月17日（金）
受賞作品の所有者・設計者・施工者、活動の代表者を表彰
記念講演 講師 長谷川逸子氏（建築家）
演題 「公共建築について」